

1. 研究テーマ

昨年度に続き assessment literacy の研究を中心に、「スキル統合型テスト」の作成及び評価方法などの研究において、最新の理論を実践に結びつけながら様々な検証を行った。今年度遂行した研究活動は以下の5件である。

- 1) 日本の英語教育のための Assessment literacy の Can-do リストの検証と改善
- 2) 様々なスキル統合的テストの分析と開発
- 3) 小学校英語の評価のためのニーズ調査・分析
- 4) 教室内評価に関する日本人英語教師の信条、自己効力感、実践状況の調査と分析
- 5) ELF (世界共通語としての英語) を視野にいれた英語力の測定方法

2. 活動内容

1) 毎月の研究例会

コロナ禍のため、昨年度同様、毎月の研究例会発表や討議は全てオンラインで行った。これまでは評価に関する書籍を取り上げてきたが、今年度からは主に国際学会誌に掲載された論文から上記5つの研究テーマに関連するものを選び、毎回、発表、質疑応答、論点のまとめという流れで進めた。また、学会発表の準備や内容の議論も行った。

2) ワークショップ開催

9月11日に教職を目指す学生と現職教員のための第13回ワークショップをオンラインで行った。現行学習指導要領の目標の一つである「スキル統合的指導と評価」をテーマに掲げ、基本的なテスト理論、評価法、項目分析に関する講義、モデル授業、参加者によるテスト作成とその批評活動及び評価方法に関する議論を行った。

3) 学会発表

読書会から得た知見や上記ワークショップのアンケート結果を踏まえて、実際のテスト結果の分析などを基に、以下の学会発表を行った。

● AILA 国際大会での研究発表：TOEFL のスキル統合問題を解く際に使われるストラテジーについて量的・質的分析をし、その結果を発表。

● JACET 国際大会におけるシンポジウム：5人の代表が、現在の大学入試の問題点と今後のあるべき姿について様々な角度から提案をし、参加者と活発な議論を行った。

● JACET 国際大会の SIG ポスターセッション：90年代からの本研究会の活動の足跡に加えて最近の研究成果を図表を含む分かりやすい形で提示。本研究会の活動内容を参加者に知っていただく貴重な機会となった。